

生ごみ分別収集・資源化に関する制度設計（案）についての市民説明会 開催日別意見・質問（2022.7.2～2022.9.3）

開催日	開催場所	内容	回答	
7月2日	市役所 （参加人数 32人）	意見	市で想定している袋のサイズでは、大きな生ごみ（キャベツの葉、トウモロコシの芯）が入らないのではないか。サイズについて再度検討してもらいたい。	
			食品ロスを出さないよう推奨するのであれば、具体的な対策について資料に盛り込んだほうが良いのではないか。	
			生ごみ分別が始まるとカラスの被害が悪化すると思われる。対策もしっかり考えてもらいたい。	
			生ごみ用ごみ袋のサイズについて、もう少し小さい袋を作製してもらいたい。	
			燃やすごみ用指定ごみ袋と生ごみ用指定ごみ袋に価格差があると、安い生ごみ用指定ごみ袋に燃やすごみを入れて出す人が増え混乱するのではないか。	
		質問	生ごみは水切りネット、ビニール袋に入れたままでの排出でよいのか。	葉山町に設置予定の生ごみ資源化処理施設で、破袋・ふるい分けを行う予定であるので、なるべく分別の手間がかからないように、そのような排出方法を考えている。
			堆肥はどのように配布するのか。有料か無料か。	有料か否かは品質を確認しての判断になるため、現時点では回答できない。無償配布の場合は、現状の堆肥と同様の配布方法を検討していきたい。
			年末は収集が止まるため正月明けに大量の生ごみが出るが、施設の処理能力で対応できるのか。	施設規模算定の変動係数を1.15としており、正月明けの大量のごみについても想定しているので問題はない。
			豊橋市で使用しているような生ごみ用のコンテナは市が用意するのか、自治会が用意するのか。	生ごみ用のコンテナについては決定事項ではない。豊橋市はごみネットが主だったが、逗子市はネットボックスが主であるためコンテナでの運用が可能かどうかの検討も必要である。今後の市民説明会での意見を踏まえ、市民の皆さんになるべく負担のない形で決定していきたい。
			生ごみはどうしても水分が多く含まれ乾かすのに時間がかかるため、新聞紙で水を吸ってから出している。水切りで使用した新聞紙も生ごみとして出してよいのか。	葉山町での実証実験でも同様の意見が出ているが、現時点では水切り後の新聞紙は燃やすごみとして出してもらいたいという検討状況である。
			環境問題は、個人差が大きい。関心のない人からしたら生ごみ分別は手間が増えるだけと思われてしまう。関心のない人に自分事として考えてもらうために啓発は重要と考えているが、市では具体的に考えているのか。	来年度以降の説明会を充実させるとともに、市の公式LINEやごみ分別アプリ「さんあ〜る」なども用いて周知・徹底を図ってきたい。
			生ごみ処理容器はどの種類でも対象になるのか。対象が増えると財政ひっ迫も懸念されるが大丈夫なのか。	電気を使わないものはすべて対象になる。財政面での対策として、年に1回まで、上限額3万円の申請という制限をしている。
			減免世帯に配付している指定ごみ袋だが、使い切れない現状である。配付量が適正か市で利用状況を把握しているのか。無駄をなくすためにも足りない分を配付するという方法を検討してはどうか	枚数を減らしてしまうと週に1回しか出せなくなってしまうため、枚数は減らさずに容量を小さくすることで現状と総量の変化がないような制度設計（案）としている。利用状況については、制度見直しのタイミングで再度把握に努めたい。
			葉山町では指定袋の内袋に生分解性プラスチックの袋を使うことを検討しているようである。逗子では検討しないのか。	葉山町で内袋に生分解性プラスチックの袋の使用を検討しているということは、聞いてはいない。生分解性プラスチックは、検討の結果、導入時の採用はしないこととした。その理由は、分解する性質から、生ごみを排出直前に入れる必要がある、強度が弱い等の課題があり、十分な品質を担保できない可能性があることから、ごみステーションの衛生を保つことが最優先と考えたからである。今後も情報収集に努め、改めて検討する必要がある。
生ごみの分別収集開始後の財政効果が1億3,000万円の削減とあるが、これは葉山町に支払う生ごみ手数料を含んだ数値なのか。	葉山町へ支払う負担金、運搬費用のほかに鎌倉市からの可燃ごみ受け入れに伴う負担金収入も含まれている。			
7月6日	久木会館 （参加人数 16人）	意見	生ごみ分別収集が始まるとネットボックス内で出す場所を左右に分ける、生ごみ用の容器を用意する等の工夫が必要になる。なるべく今のネットボックスをうまく活用できる工夫をお願いする。	
		質問	違反ごみがあった場合は数日間置いた後に回収されるが、生ごみでも同様か。臭いやカラスの点からも心配である。	生ごみを違反ごみとして残してしまうと、カラス被害等でステーション管理上問題があるため、もし残っていた場合は環境クリーンセンターへ連絡してもらいたい。悪質なものの中身を確認し判明した場合は指導を行う。
			堆肥の配布は無料か有料か。	品質を見ながらこれから葉山町と協議していくが、市民には無料で配布する予定で考えている。
			生ごみ処理容器の補助率が上がった経緯を教えてください。	原油や木材の価格が高騰し、生ごみ処理容器自体の価格が上がっているため、上限額は変えず補助率をあげることで以前の購入者と差が生じないようにしている。補助対象になるか不明であれば購入前に問い合わせいただきたい。
			生ごみ処理容器は何台持ってもよいのか。	世帯人数等によって生ごみの出る量が異なるため台数の制限はないが、助成を受けられるのは1年度に1回である。

開催日	開催場所	内容	回答	
7月15日	山の根親交會館 〔参加人数 15人 〕	意見	生ごみの範囲は、実生活で出ているものを生ごみに含めてもらいたい。市民に無理のない範囲で始めないと制度自体が進まないと思う。	
		質問	逗子市のし尿、浄化槽汚泥の処理を葉山町に委託しているとのことだが、逗子市の浄水管理センターで処理しているものとの違いは何か。	逗子市の下水道から流れてくるし尿は浄水管理センターで処理している。葉山町に委託しているものは、一般家庭の汲み取り分と工事現場等の仮設トイレから出たし尿である。葉山町に事務委託する前は逗子市の浄化センターで年2,000万円程度かけて処理していた。
			生ごみと燃やすごみで収集員が別々だと取り漏れが出てしまわないか。	生ごみと燃やすごみは同日に収集する予定であるが、収集員は別のため取り漏れがないよう先に収集に来た職員がステーション内を選別したうえで整理する。具体的な検討は市民の皆さんからの意見を踏まえ進めていく。
			ネットボックスの更新を考えているが、生ごみ収集が始まった後もネットボックスでの収集は継続するのか。ネットボックスでの収集がなくなる可能性はあるか。	ネットボックスでの収集をやめる考えはない。
			3～8パーセントしか堆肥ができないと記載があり効率が悪い気がするが、その程度でもコストパフォーマンス的に問題ないという結論なのか。	平成10年の4市1町（横須賀市、鎌倉市、三浦市、逗子市、葉山町）の協議会の時点から生ごみの資源化は検討しており、当初はバイオガス化施設を検討していた。その後、協議会が解散し鎌倉市、逗子市、葉山町の2市1町の協議会になった際に、バイオガス化施設では1割程度しか生ごみを減らせず9割は燃やすことになってしまうことや、小規模の共同処理では施設のコスト負担が大きいことから、堆肥化が最適という結論になった。通常の堆肥化施設ではもっと多くの堆肥ができるが、需要とのバランスを考え、高温で減容化させる仕組みを採用した。なお、できた堆肥は市民に無料配布する予定である。
			1億3000万円の財政効果で大部分を占めるのは何か。	生ごみ資源化により燃やすごみが減量した分、鎌倉市から燃やすごみを受け入れることで負担金収入が増えることが一番大きい。
			鎌倉市から燃やすごみを受け入れなかった場合、生ごみ処理開始に伴い支出が増えるのか。	生ごみを葉山町まで運搬する経費を考慮しても、生ごみを資源化するほうが焼却するよりも安くなる。
			生ごみ分別にあたり、事前の実証実験をしたのか。	平成24年8月、10月、平成25年1月にハイランド地区で生ごみ分別のモデル事業をした。ネットボックス内に左右分けて出してもらう方法で行い大きな問題はなかった。そのため、生ごみ分別開始に伴い大きな問題はないと考えているが、ネットで管理しているごみステーションや管理が行き届いていないごみステーションについては個別に市で対応することでスムーズに制度移行できるようにしていきたい。
			生ごみは三角コーナーのネットや小袋のまま出せるということだが、葉山町の施設でネットや袋を選別する作業は大変ではないか。	ネットや小袋は堆肥化されないため省く必要があるが、葉山町に設置予定の施設において、破袋機やふるい分け機で選別されるため業務の手間は増えないと考えている。
		生ごみ用ごみ袋は機械が破り選別するとの話だが、自然に分解される袋（生分解性プラスチックの袋）を利用してはどうか。	生分解性プラスチックは、検討の結果、導入時の採用はしないこととした。その理由は、分解する性質から、生ごみを排出直前に入れる必要がある、強度が弱い等の課題があり、十分な品質を担保できない可能性があることから、ごみステーションの衛生を保つことが最優先と考えたからである。現在の指定ごみ袋は植物由来の成分が25パーセント含まれているものを利用しており、生ごみ用ごみ袋も同様の袋とする予定である。	
生ごみの範囲を具体的に示してもらわないと困る。また、我が家のキエーロでは骨や貝は消えない。葉山町の施設では消えるのか。	生ごみの範囲については、現在葉山町と協議しているが、パブリックコメントの時点ではある程度のリストを示さないと、生ごみ分別の是非について判断できないと思う。そのため、パブリックコメントの時点で具体的な品目をできる限り示せるようにしたい。葉山町の施設は、高温で微生物の分解を促すため、キエーロよりも分解力は強い。また、前処理、後処理で分解されなかった不燃物は除去できる部分も踏まえ、市民に負担のかからない分別の仕組みにする前提で葉山町と協議している。			
燃やすごみに生ごみが混在してしまった場合は、違反ごみとして放置されるのか。	生ごみを違反ごみとして残してしまうと、カラス被害等でステーション管理上問題があるため、もし残っていた場合は環境クリーンセンターへ連絡してもらいたい。悪質なものの中身を確認し判明した場合は指導を行う。			

開催日	開催場所	内容	回答
8月1日	新宿会館 (参加人数 9人)	意見	
		新宿地区は、ほぼネットボックスのステーションのため、豊橋市のように左右に分けるやり方は無理だと考える。収集日を変えるなど工夫してほしい。	
		1週間で5リットルの袋1つ程度しかごみが出ないため、生ごみの分別収集が始まったらさらに小さい袋が欲しい。小さくするとコスト高になるのはわかるが、袋が小さくできないなら生ごみ用の密閉容器をステーションに設置する等で生ごみを家に溜めずに済む方法を検討してもらいたい。	
		生ごみのバイオガス化施設を検討したが適当ではないと判断された経緯は。	1998年から4市1町（横須賀市、鎌倉市、三浦市、逗子市、葉山町）の協議会でバイオガス化施設も検討したが、その後協議会が解散し、平成24年に生ごみの資源化についてコンサルによる検討をした結果、堆肥化が適しているという結論が出たためバイオガス化施設は検討から外した経緯がある。
		鎌倉市が埼玉県寄居町で生ごみ処理をしているのは把握しているか。	乾式メタン発酵で行っていると把握している。混合ごみを生ごみと燃やすごみに選別し、生ごみをバイオガス化しその他は燃やしているというもの。見学もした。集めたごみの1割程度しかバイオガス化できず残りは焼却してしまうことや焼却施設を併設しなければいけないこと等で逗子市、鎌倉市、葉山町で実施するのは難しいと考える。
		乾式メタン発酵の施設に入ったものは生ごみの他に燃やすごみも含まれている。単純に1割程度しか資源化できないことを理由に検討しないのはおかしい。	平成24年度に実施した生ごみ分別モデル事業の報告書で減容化を含めた堆肥化が適当という結論だったため、生ごみの処理方法としては、メタン発酵についてはその後情報収集はしているが、具体的な検討はしていない。
		乾式メタン発酵は汚れた紙も資源化でき、分別も不要。また副産物は使い勝手の良い電力。それを否定する材料が欲しい。	生ごみの処理方法として、堆肥化のほかにバイオガス化、乾式メタン発酵等の方法もあるが、それらの施設は建設費や維持管理費が高額になる。なるべく複雑なプラントではなく、単純で経費がかからないプラントが逗子市の人口規模に合っているということから検討から外した。
		生ごみを堆肥化する際に残渣はどの程度出る想定か。	今回の方法は減容化するもののため、残渣として想定されるものには袋や水切りネット等がある。こうした残渣の想定量は、運用が始まらないと分からない部分が多い。
		不純物はどの程度とれるのか検討しているか。シミュレーションしたか。	今年度葉山町で分別の実証実験をしている中で組成分析をしている。その結果からある程度の推計はできる。平成24年度にハイランド地区で行ったモデル事業では、月を重ねるごとに混入率が徐々に下がっていったというデータもある。
		できた堆肥は有機JAS認定を取れる品質か。堆肥化した際のナトリウムの混入は問題になるが確認しているのか。	逗子市では植木ごみの一部を堆肥化しているが、その堆肥は成分分析をして肥料取締法に基づき、神奈川県知事へ届出を行っている。生ごみの堆肥についても同様に取扱うこととなる。
		できる堆肥は、観光農業にしか使えないということか。	葉山町は農家の利用が見込まれるが、逗子市は家庭菜園での利用が主となると想定している。
		令和7年度から鎌倉市の燃やすごみを受け入れるとあるが、広域化における鎌倉市の役割は何か。	令和16年度を目途に逗子市の焼却炉の廃止を予定しており、逗子市の焼却炉廃止後は、鎌倉市に設置予定の中継施設に逗子市のごみを搬入し、鎌倉市から処理施設へ運ぶという役割を担ってもらう予定である。
		なぜ鎌倉市の受け入れが必要なのか。	生ごみ資源化により燃やすごみの量が減ったことで焼却炉に余力が出るため、その範囲内で鎌倉市の燃やすごみを受け入れる。既存の施設を有効に活用し、処理を集約して広域での効率的な処理を図る考えである。
		鎌倉市のごみを受け入れることによる収入と生ごみ資源化に伴う支出の収支はどうなっているか。	鎌倉市からの負担金収入は約2億6,000万円。生ごみ資源化に伴う支出として、約5,500万円。内訳は、葉山町への負担金支出が約3,300万円、収集運搬経費が約2,200万円である。
		財政効果の説明の中で、令和7年度から逗子市の負担額が激減している。その大きな要因は何か。	生ごみ資源化により燃やすごみが減量した分、鎌倉市から燃やすごみを受け入れることで負担金収入が増えることが一番大きい。
逗子の焼却炉が廃止した後の環境クリーンセンター跡地はどう活用するのか。跡地に生ごみ処理施設を造ってはどうか。	跡地の活用について、具体的な検討はできていない。生ごみ資源化は逗子市単独で行うよりも、共同処理の方が効率的で財政面でも効果があるため、逗子市に生ごみ処理施設を建設する考えはない。		
現状でもごみ分別が煩雑なのに、生ごみ分別が始まると精神的な負担が大きい。市民が生ごみを分別することによりどの程度の財政効果があるのか。	大まかな説明になるが、焼却施設を稼働させるために年間6億円程度かかっており、現在は逗子市が約4億円、葉山町が約2億円負担している。生ごみの分別が始まり、鎌倉市から燃やすごみを受け入れが始まると鎌倉市が約2億6,000万円、逗子市が約2億3,000万円、葉山町が約9,000万円の負担になる。		

開催日	開催場所	内容		回答
8月6日	小坪小学校区コミュニティセンター 〔参加人数 19人〕	意見	耕地面積を考えると葉山は農家があるが逗子市は農家がない。家の庭も狭くなっている。堆肥化しても需要が少ないため、逗子市にメリットはないように感じる。	
			キエーロを利用しているのに、今でも燃やすごみが5リットルも出ない。これから生ごみの分別が始まると、さらに小さい袋が必要になるため用意してもらいたい。	
			ごみが循環していることを市民に理解してもらうため、チラシ等の広報に力を入れてほしい。	
		質問	平成24年度のハイランド地区での生ごみ分別モデル事業の結果を踏まえ、燃やすごみの約4割が生ごみという数値が出ているのか。	燃やすごみの約4割が生ごみという数値は、毎年4回行っている燃やすごみの組成分析の数年間の平均値から出したものである。
			生ごみ用ごみ袋の黄色はカラス対策なのか。	黄色は候補として考えられるが、色はまだ決まっていない。
			鎌倉市からの受け入れが始まると渋滞も予測される。どう対策するのか。	葉山町には、積み替えをしてもらい搬入車両を減らすよう配慮してもらっている。また、朝と夕方の時間帯を避けて搬入してもらうようにしている。鎌倉市とも同様の考えで協議していく。
			広域化の中で鎌倉市はどのような役割を担うのか。逗子市に負担金を払うだけになってしまう。	令和16年度を目途に逗子市の焼却炉の廃炉を予定しており、廃炉後は逗子市のごみを鎌倉市の中継施設へ運び、鎌倉市から処理施設へ搬出する計画である。
ディスポージャーの推進や普及支援をしてみてもどうか。	下水に関することなので下水道課が担当になるが、ディスポージャーの設置を認めていない。電動式の生ごみ処理機のディスポージャー型（抜き取り型のもの）は以前補助対象としていたが、現在は補助対象外となっている。			
人口比で鎌倉市と逗子市のごみ処理負担額を比べると、逗子市の負担額が多い気がする。	負担額は、逗子市への搬入量で案分している。令和7年度時点では、鎌倉市から受け入れるごみは鎌倉市から出る全ごみ量のうちの一部である。			
灰の処理経費は、葉山町も負担しているのか。	灰の処理に係る経費も、搬入量に応じて両自治体で負担している。			
8月6日	沼間小学校区コミュニティセンター 〔参加人数 28人〕	意見	生ごみ用ごみ袋は半額にするとあるが、安くした費用は市民が税金で負担しているだけなので安くする必要はない。袋が安くなったら生ごみ用ごみ袋に燃やすごみを入れる人が増えるのではないのか。	
			現状でも分別を守れていないステーションは、生ごみ分別が始まるとさらに荒れてしまう。広報活動を充実させ、周知を徹底することが重要である。	
			ボランティア清掃用ごみ袋に散乱したごみを入れて出したが、使い方が違うという貼り紙がされていた。散乱ごみを掃除したものですというメモを貼ったら持って行ってもらったが、回収しないということはやめてもらいたい。	
			生ごみの違反ごみを収集しないのは、街の美化のためにもやめてもらいたい。	
		大きな財政効果額ではなく、袋を有料にしたことに伴う財政効果額が知りたい。		
		質問	財政効果には、生ごみ処理施設の建設費が含まれているのか。	逗子単独で6億円程度かかっていた経費が、葉山町と共同処理が始まり負担金を搬入量で案分した結果、逗子市負担額は4億円程度になった。2025年度は鎌倉市のごみの受け入れが始まり逗子市負担は3億円程度に減る予定である。この計算には、葉山町に設置する施設の建設費、維持管理費の負担金も含まれている。
			身近に出る燃やすごみは分別させるのに、なぜ家電は収集してくれないものがあるのか。	収集できない家電があるのは、家電リサイクル法の施行に伴い、テレビや冷蔵庫などは市で回収できなくなったためである。
分別アプリ「さんあ〜る」に、ごみの出し方について、市民からよくあるQ&Aを載せたらどうか。このアプリはパソコンでも使えるのか。	質問内容は載せるようにしたい。もともと市のホームページにごみの出し方は載せていたが、スマートフォンに対応させるためアプリを導入した。「さんあ〜る」はパソコンには対応していない。			
そもそも大都市の横浜市へもっていけば、細かい分別にしなくてもよかったのではないのか。分別品目が増えることは市民負担ではないのか。	ごみの処理は、基本的にごみが出た自治体内で処理しなければならないという原則的な考え方がある。以前に焼却炉の工事で炉を長期間停止した際は、横浜市に焼却処理を委託した経緯はあるが、他市にごみ処理を短期間でも委託するということは、協議、調整がそう容易なことではない。			
米軍関係者が逗子市には多いと思うが、外国人向けの広報はどうするのか。	家庭ごみ処理有料化導入の際は、横須賀の米軍基地本部へ依頼し周知した。生ごみ分別についても、米軍基地と連携し周知していきたい。また、米軍関係者に物件を紹介している不動産会社には英語版のごみ分別パンフレットを渡し周知依頼している。なお、違反が目立つ方には個別に対応している。			

開催日	開催場所	内容	回答	
8月16日	池子会館 〔参加人数 4人 〕	意見	生ごみも燃やすごみも5リットルの袋では大きすぎるため、検討願いたい。貝殻は燃やすごみで処理した方がよいのではないかと。自家処理している人は、生ごみで出すものが貝殻や魚の骨だけになってしまう。メタンガスの発生を抑える手段を考えてもらいたい。PRも願いたい。	
		質問	生ごみの分別が始まったら、ティッシュはどちらに入れるのか。	ティッシュは燃やすごみに入れる。
			おむつ、生理用品はどちらに入れるのか。	おむつは、燃やすごみの日に指定ごみ袋ではなく透明又は半透明の袋で出すことができる。生理用品は、燃やすごみとして指定ごみ袋で出す。
			貝殻は生ごみか燃やすごみか。	現在は「燃やすごみ」、生ごみ分別収集後は「生ごみ」と考えている。
			黄色の袋はカラス対策としての黄色なのか。塗料の練り込んだカラス対策の袋を作製しているところもあると聞く。	家庭ごみ処理有料化導入時に検討を行っているが、結果的に青色とした。黄色の袋については、効果があるという見解と効果がないという見解がある。全く中身が見えない袋を採用すると、ルール違反対策が難しくなる。今回、生ごみを分別するに当たっては、燃やすごみと見分けが付きやすい色、少しでもカラス対策になるのであれば黄色がよいと考える。どんな色の袋でも、結び方が悪いとカラスなどに荒らされるということもある。出し方の周知も徹底していきたい。
			カラス対策は各自治会費用で行うということか。ネットボックスに付けるプラバン費用は補助の対象ではないということで、自治会で費用を出している。説明にあったコンテナの補助金を少しでも出してもらえないか。	予算を伴うものについてはこの場で即答はできないが、自治会等で色々な工夫をしていただきカラス対策を行っていることは承知している。市内に約1,200箇所ごみステーションがあるが、約9割がネットボックスである。ネットボックスが設置できないごみステーションへの対応等については、検討する必要がある。地域の環境衛生が保たれるよう考えたい。
			堆肥の市民還元方法は。	現在、環境クリーンセンターで草・葉・植木ごみの剪定枝堆肥をつくり、第一運動公園、市役所脇で配布している。生ごみ堆肥も同じように配布しようと考えている。
			生ごみは、新聞紙で水分を吸収させ、燃やすごみとして出している。今後は、新聞紙はどうすればよいか。	水分を吸収させた新聞紙は燃やすごみでお願いする。水切りネットについては、そのまま生ごみとして出せるように考えている。
			水切りネットは生分解性ではない。そのまま出せるのか。	施設で機械選別する予定なので、そのまま出していただく方向で考えている。
			指定袋を生分解性プラスチックにすればよいと思うがどうか。	生分解性プラスチックの袋については、実際に使っている自治体の視察を行っている。溶けやすい特徴があるため、前日の夜に生ごみを入れてもらう等の注意が必要であり、ごみステーションで袋が溶けてしまう可能性を考慮し、現段階では採用しない方向である。今後、技術が進み溶けにくく安価になった段階で再検討する予定である。
植木ごみをチップ状にして撒くことはできないか。市から機械は借りられないか。	電動のチップ化の機械は、平成22年度に国の補助金を使って2台購入し、市民へ貸し出しを行っていた。老朽化による故障のため、現在は貸し出しを行っていない。生ごみ処理機の電動式が補助金の対象の時は、チップ化の機械も補助対象としていたが、現在は対象としていない。			

開催日	開催場所	内容	回答	
8月17日	市役所	意見	ボランティア清掃用ゴミ袋を生ごみ用と燃やすごみ用と2種類作製する必要があるのではないか。また、最近ボランティア清掃用ゴミ袋が回収されないことがある。考えてもらいたい。	
			葉山町に設置する生ごみ資源化処理施設は、メタンが発生しないようにしてもらいたい。	
			カラスよけネットではカラスの被害が酷い。ネットボックスも下の隙間からカラスがつかないように工夫してほしい。	
			亀ヶ岡神社脇のごみステーションのカラス被害が酷い。何か考えていただけないか。	
			ごみステーションにナンバーを付け、出す人の範囲を決めて欲しい。	
			一人暮らしだと生ごみがさほど出ない。5リットルの袋では大きすぎる。	
			生ごみ用ゴミ袋の値段を半額にすると、安い方の生ごみの袋に燃やすごみが混入しないか。	
			金額に差をつけると、安い方の生ごみ用ゴミ袋に燃やすごみが混入するという懸念が発生するのではないか。	
	全ての非課税世帯を減免対象にして、生ごみと燃やすごみの指定ゴミ袋の手数料を同じ金額にしてはどうか。			
	〔参加人数28人〕	質問	夏場は、生ごみが腐らないように、ビニール袋に入れて冷凍している。この場合、袋を破って、生ごみのみを生ごみ用ゴミ袋に入れるのか。油料理の場合、新聞紙や布で食器を拭く。今までは、燃やすごみに入れていたが、生ごみと一緒に出せるのか。	小袋については、そのまま生ごみ用ゴミ袋に入れて出せるようにする予定である。処理工程の最初で袋を破る。新聞紙と布については、分解しないため燃やすごみになる。
			計算すると製品である堆肥は年間100トンできる。処理するには10haから5haの畑が必要だが、行先はどうなっているのか。	葉山町では、同等の成分の堆肥を買取って、町内の農家で使用実験をしている。同じブランドメーカーが家庭生ごみから製造した堆肥で三成分、C/N比の同等のものである。逗子市は第一運動公園と市役所脇で剪定枝堆肥を配布しているが、同じような形で配布を考えている。葉山町は農家があるので、流通は問題ないと考えている。
			生ごみ資源化施設の設置場所はどこか。	葉山町クリーンセンターに設置する。葉山町役場から奥に入った場所になる。
			生ごみ資源化施設の設置に町民の了解は得られているのか。	葉山町が責任を持って行っている。
			葉山町の実証実験の内容が見たい。見る方法があれば教えてほしい。	葉山町の実証実験はホームページで公表されている。
			環境保全効果（説明資料25ページ）について説明が欲しい。	環境保全効果について、焼却に伴う二酸化炭素排出量は、燃やすごみ中のプラスチックなどの燃焼、施設の運転に伴う電気使用量及び燃料使用量であり、さらに焼却残渣の資源化に伴う電力使用量について試算している。それに加え、令和7年度は、生ごみなどの運搬に伴う燃料使用量、生ごみ資源化施設からのメタン等の発生量を合計して試算し、令和元年度と比較している。
			生ごみと燃やすごみの収集日を同じ日にするのは決定か。生ごみと燃やすごみを収集する車が分かれ、違う場所へ運ぶのであれば、別々の日にするべきではないか。	今回お示ししているのは制度設計（案）であるので決定ではない。豊橋市は、生ごみの分別を開始した1年目は、生ごみと燃やすごみを別々の日に収集していたが、毎日ごみステーションに行くのは手間がかかるという意見が多くあり、2年目から同一曜日収集に変更したと聞いている。
			生ごみを自家処理している家庭は、分解しにくい貝殻や魚の骨しか生ごみとして残らない。このような生ごみがたくさん出てきたら、堆肥の品質を担保できるのか。	貝殻や魚の骨しか生ごみとして出ない家庭については、燃やすごみとして出した方が、生ごみ資源化施設での堆肥化処理にとっても望ましいことが考えられる。分別上の扱いについて検討する。
各家庭での自家処理によるメタン発生量総量と施設でのメタン発生量はどちらが少ないか。			メタン発生量については、活動量によってメタン発生量が決まる。排出係数は決まっているので量に比例する。	
生ごみ資源化施設の建設・運営経費はどうか。逗子市の負担は。	施設建設費は1/3に国の交付金を充てる。起債償還額を20年間で割り返し、単年度資本費を算出し、単年度維持管理費を加え、処理量割りで計算した単価が18.9円/kgと推計している。処理量に応じた負担金を葉山町へ支払う。			

開催日	開催場所	内容		回答
8月23日	逗子ブリーナ 〔参加人数 4人 〕	意見	指定ごみ袋について、袋式とロール式の2種類を販売してほしい。	
		質問	容器包装プラスチックやペットボトルは海外へ輸出されていると聞く。きちんと資源化されているのか。	容器包装リサイクル法のスキームに則って資源化している。同法には国内処理の原則があるので、海外には輸出していない。同法の指定法人である容器包装リサイクル協会が入札を行う。令和4年度逗子市分はマテリアル（物質）リサイクル業者が落札している。海外に流出していると報道されているのは、容器包装リサイクル法のルートに乗らない産業廃棄物と思われる。ペットボトルは、容器包装リサイクル法のルートで、有価で売却されている。
			葉山町から、容器包装プラスチックの処理を受託とは、どのような処理か。	指定法人へ引き渡すための中間処理のこと。圧縮処理してバール化し、大型トラックに積み込む処理である。
			ハイランド地区の生ごみ分別モデル事業とは何か。	2012年度（平成24年度）にハイランド地区約1,400世帯を対象として、燃やすごみを、燃やすごみと生ごみに分別して出してもらい、排出量や中身の異物混入量などを調査した。
			ごみ出しルールを守らない人がいる。生ごみの中に汚れたプラスチックが入っていたら、置き去りにされるのか。ハイランド地区での生ごみ分別モデル事業ではどのような結果だったのか。	燃やすごみの袋に生ごみが混入している例はあったが、生ごみの袋に異物が混入している例は少なかった。ルール違反ごみについては、排出者本人に気付いてもらうためにシールを貼って置いていくが、臨機応変に対応している。
			二重袋で排出してよいのか。	臭い対策などで小袋に入れた生ごみは、そのまま指定ごみ袋に入れて出せるようにする予定である。
			固めた油や油を吸着させた新聞紙は燃やすごみか。	燃やすごみとして出していただく。
			廃食用油を資源化する予定はあるか。	廃食用油は、ごみステーション収集は行っていないが、平成23年度から拠点回収を行い資源化している。
			生ごみ資源化経費の内容は運営費か。	建設費と運営費が含まれている。建設費については、国からの補助金を除いた金額及び利子を起債（地方債）の償還年数で割り返し、処理量按分した金額である。運営費は年間の運営費である。
			指定ごみ袋をロール式のものにできないか。袋式だと保管場所をとる。	家庭ごみ処理有料化の検討段階で、袋式とロール式の検討をした。手が不自由な人は、袋式ならば外装袋を掴んで振ることで中の指定ごみ袋を取り出すことができるが、ロール式は切りはずすのが難しいこと等の理由から、袋式を採用した経緯がある。
施設について、専門家によるバリューエンジニアリングの予定はないか。	葉山町は、施設建設の契約を結んでいる。契約にあたって、プロポーザル方式で契約先の選定を行った。葉山町では、コンサルタント出身の職員を雇い入れ、専門家の力を借りながら進めている。また、契約先プラントメーカーが建設した同種の施設を視察し、適切な処理がなされているかの確認も行っている。			
8月28日	市役所 〔参加人数 11人 〕	意見	生ごみ用ごみ袋は5リットルより小さな袋を作してほしい。	
			高齢者は今でも分別が難しいのに、さらに細かくなると余計に分別できない人が増える。マンションごとに説明会を開催するなど、もっと細かい地域で説明会を増やし周知してもらいたい。	
			飲食店やスーパーなどに食べきりサイズや骨のない商品を増やす等の取組も必要。食品ロス削減には事業者への周知も重要である。	
			手数料収入約1億円の使途として、袋の作製費用や販売手数料に約4,000万円を充てている。今後、生ごみ用ごみ袋も作製するとすると手数料収入の多くが袋の諸費用に充てられてしまう。袋一枚に対しいくらの費用がかかっているのか。袋を安くしても、諸費用で相殺されてしまうのではないか。それであれば、袋を無料化してもよいのではないか。	
			キエーロは場所をとるため、マンションでは使えない。	
		生ごみ分別は市民の協力がとても重要である。生ごみゼロ週間やごみを考える日などのイベントを企画し、市民に対し市がアプローチしていくことも大切だと思う。		
		質問	味噌汁のような塩分を含むものを生ごみとして出してしまうても堆肥の品質に問題ないか。	量による。塩分だけが大量に入れば問題だが、味噌汁の塩分程度ならば特に問題はない。
			マンションでは生ごみ処理容器でできた堆肥を活用しきれない。できた堆肥はどうするのか。市が受け入れてくれるのか。	市での堆肥の受け入れは考えていない。集合住宅における生ごみ処理容器等の普及については、別途検討していく必要があると考える。
			逗子市の最終処分場はどの程度で満杯になってしまうのか。満杯になってしまったらどうするのか。	現在、最終処分場への埋立は行っていない。埋立てると1～2年ほどで満杯になってしまう。災害時の廃棄物の保管場所等を考慮し、残余容量は残している。現在は外部に委託して焼却灰の資源化を行っており、年間約9,000万円程度の資源化処理費用がかかっている。
			資源物は無料という考えならば、生ごみも無料とするべきではないか。	生ごみは家庭で処理できる唯一のごみである。生ごみの分別収集・資源化を開始しても、これまでどおり家庭用生ごみ処理容器等での自家処理や生ごみの削減が優先される。生ごみを無料化してしまうと自家処理のインセンティブがなくなってしまうため、燃やすごみよりも低い処理手数料とする考えとしている。
ふれあい収集とは何か。	高齢や障がい等によりごみステーションへごみを出せない方を対象に、安否確認も含め環境クリーンセンターの職員が収集に向う制度である。平成13年に開始し、現在200世帯程度の登録者がいる。			
ふれあい収集を利用していても、高齢者はそもそも分別ができない。その場合はどうするのか。	介護保険サービス等でごみ出しの支援をしてもらっている世帯もある。なお、ごみが未分別のとき、ごみを収集しなければ対象者宅の環境衛生が保持できない等、やむを得ない理由がある場合は、環境クリーンセンター職員が持ち帰り、手選別により処理を行っている。			

開催日	開催場所	内容	回答	
9月3日	市役所	意見	キエーロのように土に埋めるものはごみが無くなる。土壌処理すると、主に二酸化炭素とメタンになる。本当にこれは気候変動に効果があるのか、悪い効果が大いではないか。メタンは二酸化炭素の25倍（経済産業省数値）の温室効果ガスが発生する。土壌処理は、ごみが無くなるのは素晴らしいが、地球温暖化につながる。メタンを発生させて、子ども、孫の世代までツケを残しているのか疑問だ。これを大きくした葉山町の資源化処理施設では間違いなくメタンが発生するが、葉山町はメタン発生量を測る計画はないとのことだった。豊橋市は、メタンガスを燃やし発電している。ごみからエネルギーを作り、エコシステムに回している。逗子市は気候変動を後押しするようなシステムを作って、目の前のごみを減らすのか。行政として本当によいのか。素人の考えで作られたキエーロも、行政が補助金を出してよいのか。環境保全効果（説明資料の25ページ）にメタンの言及がない。豊橋市、長岡市、北海道の一部のようにガス化して発電に回した方がよいのではないか。岩手県久慈市ではエタノール化している。このようなエコシステムが鎌倉市、逗子市、葉山町が一体となればできる。逗子高校跡地など土地がありながら、気候変動を後押しするようなシステムを作るのはどうなのか。	
		キエーロからメタンが発生するという論文はない。だからメタンは発生しないとしてよいのか。原理的には、嫌気性醗酵からCO2が3つ、メタンが3つ発生する化学的な考え方をすべき。将来逗子市が環境負荷都市になるのか環境貢献都市になるのか。鎌倉市、逗子市、葉山町は、広域化のために組んだのではないのか。		
		生ごみ用ごみ袋は5リットルより小さな袋を作ってほしい。		
		この説明資料では、生ごみを分別することに対しメリットを感じられない。「地球温暖化」と抽象的に表現するのではなく、「孫の代には夏は毎日40度を超え、異常気象による被害も増える」などのように自分事として捉えられる表現にしてはどうか。		
		財政効果が見込めるのであれば、指定ごみ袋を安くするなど市民に還元する形にしてもらいたい。		
	参加人数 20人	質問	異物が混入した場合、環境クリーンセンターで手選別をしていると聞いた。生ごみの袋に異物が混ざった場合、堆肥の品質に影響はないのか。	収集時に違反ごみについてはシールを貼り一定期間周知しているが、生ごみについては性質上、長期間置いておくことはできないと思っている。生ごみの袋に異物が混入した場合は、少量であれば葉山町に設置予定の機械で選別して取り除くことができる。
			葉山町は白色トレイや製品プラスチックなども集めており、逗子市と葉山町で分別種別が違う。容器包装プラスチックは逗子市で葉山町の分も資源化しているが、それらが混在してしまっても問題ないのか。	白色トレイや製品プラスチックは、葉山町独自で資源化しているため、逗子市にはそれ以外の容器包装プラスチックのみ搬入されている。
			計画施設規模は10トン/日と書いてあるが、どのような意味か。また堆肥が余った場合は販売する等を考えているのか。	逗子市と葉山町の生ごみの収集量である約10tを処理できる施設という意味である。生ごみを処理し、減容した後に残る約3～8%が堆肥となる。堆肥は市民に無償配布する予定である。その上で余ったものについては、事業者に対して有料での販売も検討したいと思っている。
			COP26が開催された。堆肥化施設ではメタンを多く出すと見えてしまう。10t規模のバイオガス化施設を作っているメーカーもある。堆肥化は、目の前のごみが無くなればよいというように見えてしまう。将来を考えたサステイナブルな計画に見えないが、いかがか。	バイオガス化施設は、残渣が一定量出てしまい焼却せざるを得ない。また、複雑なプラントを作るとなると維持費が高額になる。メタンは、嫌気性醗酵で生じる。キエーロは好気性の醗酵のためメタン発生はある程度抑えられると理解している。
			メタンの件について検討するかどうか、一言いただきたい。納得しろよという説明会だったら今日来たことを後悔する。	メタンの発生量を含め、二酸化炭素の発生量については、国の示す積算方法に従って計算し、スライドでも示したとおりである。全て決まっている訳ではない。資源化施設については、葉山町議会の議決を経て契約が済んでいる。逗子市としても、この方式での共同処理を進めていきたいと考えている。分別や収集方法などについては、ご意見を踏まえ、制度設計への反映を検討する。
			様々な自治体を視察してよかった点や課題がいくつかあったと思う。具体的にはどうだったのか。	視察した6自治体のうち5自治体は逗子市よりも小規模な自治体だった。都市部で生ごみ分別をしている豊橋市の視察は特に参考になった。豊橋市はごみステーションでネットを使用しているため、逗子市との違いはある。ネットの場合のカラス対策は参考となる。